

# 植 物 園 北 遺 跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一六―五

植物園北遺跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 植 物 園 北 遺 跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、共同住宅新築工事に伴う植物園北遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

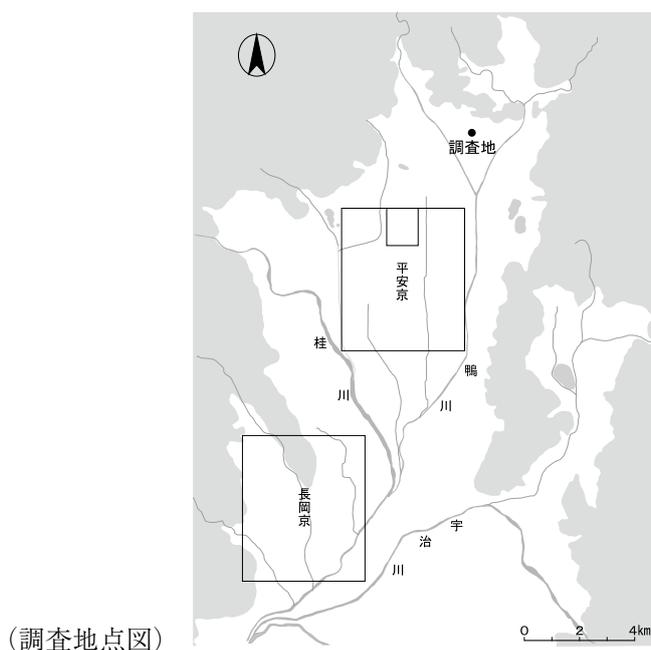
平成29年1月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 植物園北遺跡（文化財保護課番号 16 S 276）                 |
| 2 調査所在地  | 京都市左京区下鴨狗子田町3-2                           |
| 3 委 託 者  | 株式会社 かねわ工務店 代表取締役 田丸政則                    |
| 4 調査期間   | 2016年9月26日～2016年10月17日                    |
| 5 調査面積   | 143.75㎡                                   |
| 6 調査担当者  | 李 銀眞・津々池惣一                                |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「植物園」を参考にし、作成した。  |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）            |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                            |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。         |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                      |
| 12 本書作成  | 李 銀眞                                      |
| 13 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |



# 目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査の経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 歴史的環境と立地	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	9
(1) 基本層序	9
(2) 遺 構	9
4. 遺 物	12
5. ま と め	13

# 図 版 目 次

図版1	遺構	1	調査区全景（北から）
		2	土坑41（南から）
		3	ピット11（東から）

# 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査前全景（南東から）	2
図3	調査風景（南から）	2
図4	調査区配置図（1：500）	2
図5	周辺遺跡と既往調査位置図（1：10,000）	4
図6	調査区平面図（1：100）	9
図7	調査区東壁・南壁断面図（1：60）	10
図8	土坑41実測図（1：40）	11
図9	土坑19実測図（1：40）	11
図10	ピット群実測図（1：20）	12

# 表 目 次

表1	周辺調査一覧表 .....	5
表2	遺構概要表 .....	11

# 植物園北遺跡

## 1. 調査経過

### (1) 調査の経緯

今回の調査は、共同住宅新築工事に伴うものである。調査地は京都市左京区下鴨狗子田町3-2に所在する(図1)。調査地は遺跡地図によると、「植物園北遺跡」の南東部に<sup>1)</sup>あたる。発掘調査に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課(以下「文化財保護課」という)によって試掘調査が実施された。基盤層上面で遺構が検出されたため、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて調査を実施することとなった。

### (2) 調査の経過

発掘調査区は、文化財保護課の指導により、建設予定地と試掘調査成果を考慮して、南北11.5m、東西12.5mに設定した(図4)。調査面積は総計143.75㎡である。調査は2016年9月26日に開始し

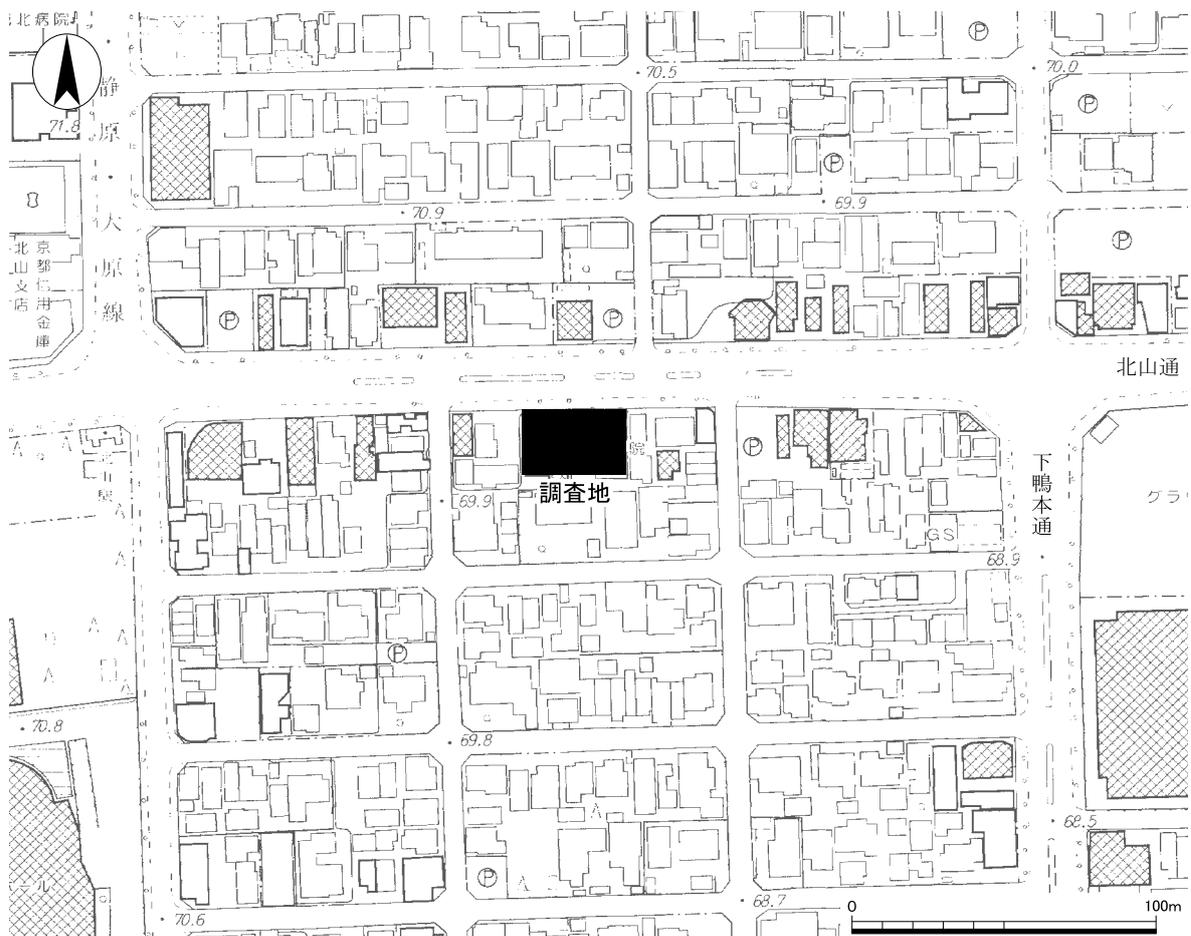


図1 調査位置図 (1 : 2,500)



図2 調査前全景（南東から）



図3 調査風景（南から）

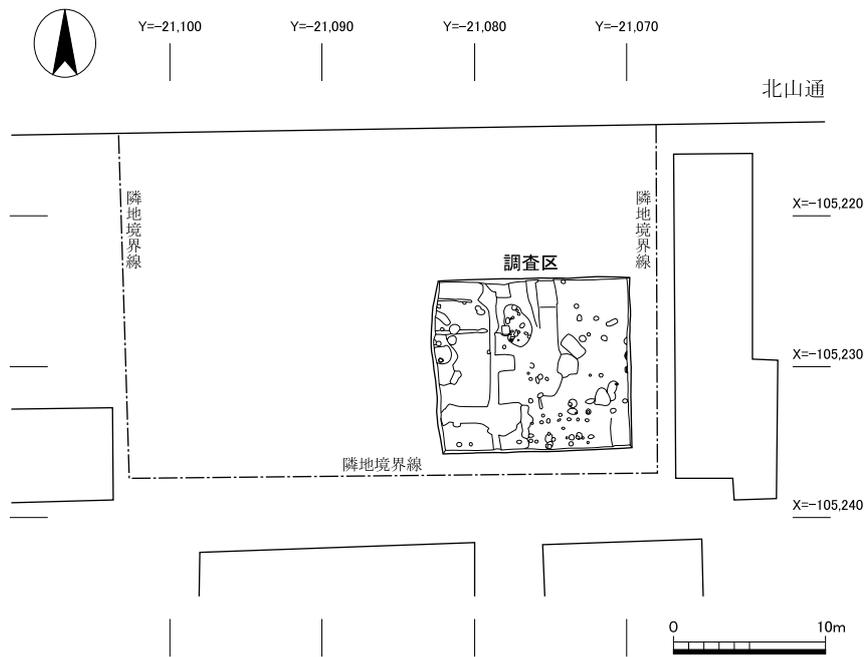


図4 調査区配置図（1：500）

た。重機により現代盛土および近代耕作土を0.4～0.5m掘り下げたところで、基盤層が検出され、その後は人力で遺構検出を行った。時代不明の土坑やピットを検出したが、出土遺物はなかった。調査は、図面類作成、全景・個別遺構写真撮影などの記録作業を行い、2016年10月17日に終了した。残土は調査区の西側に仮置きし、調査終了後、埋め戻しを行った。

なお、調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。

註

1) 『京都市遺跡地図台帳 第8版』京都市文化市民局 2007年

## 2. 位置と環境

### (1) 歴史的環境と立地 (図5)

植物園北遺跡は、京都盆地の北端、賀茂川と高野川の合流地点の北西方向の扇状地上に広がる遺跡である。現在の京都府立植物園の北方に位置しており、範囲は東西2km、南北1.5kmに及ぶ。遺跡の北側は、北山丘陵の神宮山・本山・西山に接し、東は左京区松ヶ崎の西半部、南は左京区下鴨の北半地域を含む。総面積140万㎡を超える、京都市内では最大級の遺跡の一つである。

植物園北遺跡の北側の丘陵斜面には、上賀茂本山遺跡やケシ山遺跡、上賀茂遺跡といった旧石器時代から縄文時代の遺跡が分布している。さらに丘陵上から北側の岩倉盆地にかけて、幡枝古墳群、ケシ山古墳群、本山古墳群などの古墳時代中期から後期の古墳が築かれている。また、植物園北遺跡の北西部には賀茂別雷神社（上賀茂神社）、北東には賀茂御祖神社（下鴨神社）が位置しており、いずれも創建が7世紀後半まで遡るとされ、古代カモ氏にゆかりのある遺跡とも考えられている。飛鳥時代から平安時代にかけては、植物園北遺跡の周辺に瓦窯、須恵器窯、炭窯が多数設けられ、特に平安京に供給する瓦の生産地として重要な役割を果たすことになる。

### (2) 既往の調査 (図5、表1)

植物園北遺跡は、昭和49年（1974）12月の高速鉄道烏丸線北進工事に先立つ分布調査によって発見されて以来、2015年12月までに、発掘調査が27件、試掘調査が65件、立会調査が326件の合計418件の調査が行われている。これまでの発掘調査地点と主要な遺構が検出された試掘・立会調査地点について図5と表1にまとめた。

今回の調査地周辺では発掘調査15、立会調査23が実施されている。調査地の北側約20mで実施された調査15地点では、京都市高速鉄道烏丸線（市営地下鉄）の北山駅から松ヶ崎駅間の北山通沿いに11箇所のトレンチを設定して調査が実施され、弥生時代後期の竪穴建物のほか、古墳時代以前の溝、鎌倉時代から室町時代の柱穴が検出された。そのうち、今回の調査地から最も近い2トレンチでは、竪穴建物に伴うものと思われる周壁溝と柱穴、貯蔵穴などが確認された。また、調査地の西側約60mで実施された調査23では、縄文時代中期の土坑、弥生時代末期から古墳時代初期の竪穴建物と掘立柱建物が見つかった。

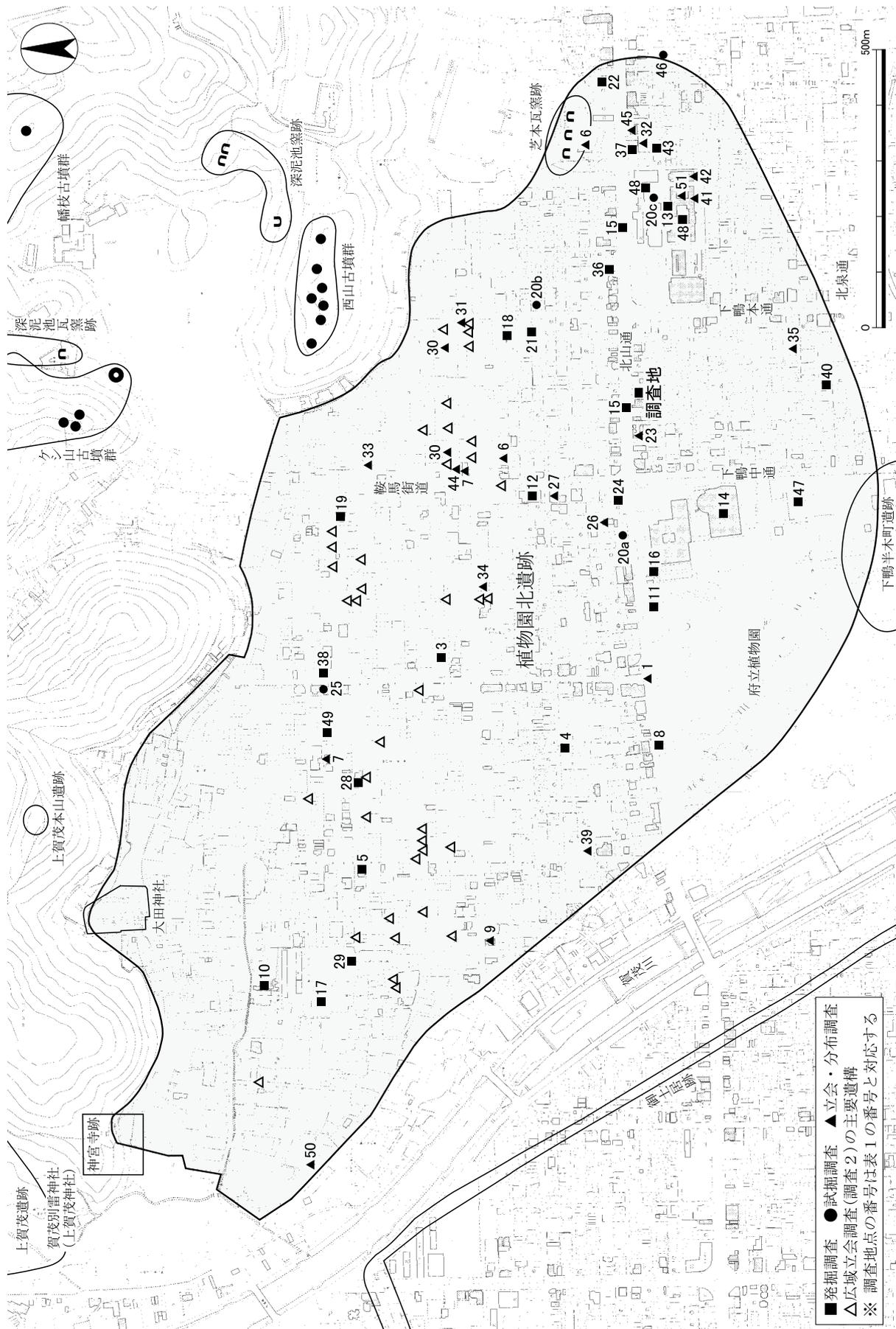


図5 周辺遺跡と既往調査位置図 (1 : 10,000)

表1 周辺調査一覧表

No.	調査年	方法	所在地	縄文時代	弥生時代	古墳・飛鳥時代	奈良・平安時代	鎌倉時代以降	文献
1	1975	分布	府立植物園北側、北山通沿い						1
2	1978 ～1981	立会	上賀茂～下鴨		竪穴建物38棟、溝10条、土坑16基(後期～古墳前期)	竪穴建物3棟、溝1条、土坑4基(後期)	土坑、柱穴(平安中期)	土坑、溝(鎌倉)、土坑、溝(室町)	2
3	1982	発掘	上賀茂榊田町15					道路	3
4	1983	発掘	上賀茂桜井町15				土坑3基		4
5	1984	発掘	上賀茂蛭ヶ垣内町47		竪穴建物2棟(後期)	竪穴建物2棟、土坑(前期)、溝(後期)			5
6 7 9	1984 ～1986	立会	松ヶ崎、下鴨、上賀茂一帯			竪穴建物10棟以上(前期)			6 7 9
8	1986	発掘	上賀茂桜井町～岩ヶ垣内町	甕棺墓(晩期)	柱穴(前期)	落込み(後期)、柱穴(飛鳥～平安中期)	溝、柱穴(平安後期)	暗渠、柱穴	8
10	1989	発掘	上賀茂竹ヶ鼻町4			竪穴建物2棟(前期)、竪穴建物8棟(後期)		井戸、溝、土坑、柱穴	10
11	1990	発掘	下鴨半木町他			溝	溝状遺構(平安中期)	溝、土坑、柱穴	11
12	1990	発掘	上賀茂松本町98			竪穴建物9棟、流路1条、土坑2基(前期)	掘立柱建物4棟(平安後期～鎌倉)	溝、土坑、柱穴	12
13	1990	発掘	下鴨野々上町1			竪穴建物8棟、土坑、柱穴(前期)、竪穴建物3棟(後期)、土坑、柱穴			13
14	1991 ～1992	発掘	下鴨半木町地内	土器棺墓		竪穴建物6棟(古墳末期～奈良)	掘立柱建物16棟、柵列、溝、埋納遺構14基	土坑、柱穴	14
15	1992 ～1993	発掘	上賀茂岩ヶ垣内町～松ヶ崎芝本町地内		竪穴建物4棟(後期)	溝(古墳以前)		柱穴	15
16	1992	発掘	下鴨半木町			溝(前期)、掘立柱建物、柵、土坑、柱穴			16
17	1993	発掘	上賀茂烏帽子ヶ垣内町1		流路(～古墳後期)	竪穴建物3棟(前期)	掘立柱建物(平安)	井戸、土坑、柱穴(中世)、土坑(近世)	17
18	1993	発掘	下鴨北芝町12		竪穴建物1棟、土坑(後期中頃～後半)、竪穴建物2棟(後期末～庄内式初期)、土坑6基(後期～古墳前期)	集石遺構(庄内式中頃)、竪穴建物1棟(庄内式末～布留式初期)、竪穴建物1棟(布留式中頃)	掘立柱建物3棟(平安後期)		18
19	1994	発掘	上賀茂松本町94		流路状遺構(弥生～古墳)		流路状遺構(平安)		19
20a	1994	試掘	上賀茂岩ヶ垣内町93-1・2、94			溝、柱穴群			20
20b	1994	試掘	下鴨南茶ノ木町29			竪穴建物1棟、溝、土坑			20
20c	1994	試掘	下鴨野々神町1-2			土坑、柱穴(飛鳥)			20
21	1995	発掘	下鴨北芝町		竪穴建物4棟、集石遺構2基(終末期～古墳初期)	竪穴建物2棟、土坑6基(前期)			21
22	1995	発掘	松ヶ崎井出ヶ海道町地内				掘立柱建物2棟(奈良～平安前期)		22
23	1995	立会	下鴨前萩町5-1	土坑(中期)	竪穴建物、掘立柱建物(末～古墳初期)				23
24	1997	発掘	上賀茂岩ヶ垣内町109-1				掘立柱建物1棟、柱穴		24
25	1997	試掘	上賀茂向繩手町61他2筆				掘立柱建物1棟		25
26	1997	立会	上賀茂岩ヶ垣内町90			竪穴状遺構、溝状遺構、落込み、柱穴(古墳以降)			26
27	1999	立会	上賀茂岩ヶ垣内町100			竪穴建物2棟(前期)	溝、土坑(平安)		27
28	2000	発掘	上賀茂土門町39		流路(後期～古墳前期)	竪穴建物(前期)、竪穴建物(中期)			28
29	2002	発掘	上賀茂烏帽子ヶ垣内町24			掘立柱建物2棟、自然流路		土坑7基、柱穴4基(室町)	29
30	2002	立会	下鴨水口町			竪穴建物4棟(前期)			30
31	2005	立会	下鴨水口町57-1			竪穴建物、落込み、柱穴			31
32	2006	立会	松ヶ崎芝本町6-1			竪穴建物6棟、柵1条、土坑、柱穴(前期)			32
33	2006	立会	上賀茂池端町41-1			竪穴建物1棟(前期)			33
34	2006	立会	上賀茂松本町53			竪穴建物1棟(前期)			34
35	2006	立会	下鴨神殿町23			竪穴建物1棟(後期)			35

No.	調査年	方法	所在地	縄文時代	弥生時代	古墳・飛鳥時代	奈良・平安時代	鎌倉時代以降	文献
36	2007	発掘	下鴨北野々神町20		竪穴建物9棟、土坑7基、柱穴群(後期～古墳前期)	溝(飛鳥)	包含層(平安)		36
37	2007	発掘	松ヶ崎芝本町4-1			竪穴建物3棟(前期)	竪穴建物1棟(奈良後半)		37
38	2007	発掘	上賀茂豊田町26、36				溝、土坑(奈良)、掘立柱建物3棟、礎敷、溝、土坑、柱列(平安)		38
39	2009	立会	上賀茂高縄手町12	土坑5基(晩期)					39
40	2010～2011	発掘	下鴨北園町5・6			竪穴建物2棟、掘立柱建物1棟、土坑2基(飛鳥)			40
41	2010	立会	下鴨南野々神町1			竪穴建物2棟(前期)、竪穴建物1棟(後期)	竪穴建物1棟(奈良)		41
42	2011	立会	下鴨南野々神町1			竪穴建物1棟(前期)			42
43	2011	発掘	松ヶ崎芝本町13番、13番1			竪穴建物4棟(前期)			43
44	2012	立会	下鴨水口町45			竪穴建物1棟(後期)			44
45	2012	立会	松ヶ崎芝本町4-4、4-5、4-6			竪穴建物2棟、土坑(前期)			45
46	2012	試掘	松ヶ崎今海道町9他			竪穴建物1棟(前期)			46
47	2011～2013	発掘	下鴨半木町			竪穴建物1棟(後期)	竪穴建物9棟、掘立柱建物27棟、柱列、土坑	自然流路、掘立柱建物	47
48	2011～2013	発掘	下鴨南野々神町1			竪穴建物13棟、土坑(前期)、竪穴建物3棟、掘立柱建物1棟、土坑(後期)	掘立柱建物2棟、土坑(奈良)、ピット(平安)	土坑	48
49	2013	発掘	上賀茂向縄手町66			竪穴建物2棟(中期)		土坑	49
50	2014	立会	上賀茂池殿町29-12、30				土器溜(平安)		50
51	2015	立会	下鴨南野々神町			竪穴建物1棟(前期)			51

文献一覧(表1の文献番号と一致)

- 『平安京関係遺跡発掘調査概報』-京都市高速鉄道烏丸線内遺跡発掘調査-京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1975年
- 「植物園北遺跡」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 家崎孝治・卜田健司『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
- 久世康博「植物園北遺跡(2)」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 辻 裕司・木下保明『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
- 調査一覧表『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
- 調査一覧表『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
- 小森俊寛・原山充志・長戸満男「植物園北遺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- 調査一覧表『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
- 高正龍『植物園北遺跡発掘調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 長戸満男・小森俊寛「植物園北遺跡2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 高橋 潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告-植物園北遺跡-』ノートルダム女子大学 1991年

- 14 久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 15 高橋 潔・高正龍「植物園北遺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 16 竹原一彦「植物園北遺跡第11次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第54冊』 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年
- 17 久世康博・津々池惣一「植物園北遺跡1」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 18 岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第58冊』 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994年
- 19 高橋 潔「植物園北遺跡(第14次調査)」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1995年
- 20 馬瀬智光「植物園北遺跡 No.63, No.64, No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1995年
- 21 石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第70冊』 財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター 1996年
- 22 久世康博「植物園北遺跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 23 高橋 潔「植物園北遺跡(96RH224)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』 京都市文化市民局 1997年
- 24 百瀬正恒「植物園北遺跡」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 25 調査一覧表『京都市内遺跡試掘調査概報 平成9年度』 京都市文化市民局 1998年
- 26 近藤章子「植物園北遺跡(97RH202)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』 京都市文化市民局 1998年
- 27 吉本健吾・竜子正彦「植物園北遺跡(99RH18)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』 京都市文化市民局 2000年
- 28 近藤章子・菅田 薫「植物園北遺跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 29 鈴木廣司・津々池惣一「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 30 堀内寛昭「植物園北遺跡(02RH51・53)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』 京都市文化市民局 2003年
- 31 堀内寛昭「植物園北遺跡(05RH276)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』 京都市文化市民局 2006年
- 32 吉崎 伸「植物園北遺跡(06RH234)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』 京都市文化市民局 2007年
- 33 吉本健吾「植物園北遺跡(06RH253)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』 京都市文化市民局 2007年

- 34 吉本健吾「植物園北遺跡 (06RH313)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 35 吉本健吾「植物園北遺跡 (06RH322)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 36 平田 泰『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007 - 1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 37 山本雅和「植物園北遺跡 1」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
- 38 柏田有香「植物園北遺跡 2」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
- 39 近藤奈央・吉本健吾「植物園北遺跡 (09RH210)」『京都市遺跡詳細分布調査報告 平成21年度』京都市文化市民局 2010年
- 40 津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年
- 41 吉本健吾「植物園北遺跡 (10RH291)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年
- 42 吉本健吾「植物園北遺跡 (11RH256)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年
- 43 吉崎 伸「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 44 吉本健吾「植物園北遺跡 (11RH364)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 45 辻 裕司・田中利津子「植物園北遺跡 (12RH260)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 46 鈴木久史「植物園北遺跡 No.80」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 47 高野陽子ほか「植物園北遺跡・下鴨半木町遺跡」『京都府遺跡調査報告集 第159冊』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2014年
- 48 柏田有香・加納敬二・田中利津子・モンペティ恭代『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012 - 24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
- 49 柏田有香『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013 - 4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
- 50 家原圭太・熊井亮介「植物園北遺跡 (14S029)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
- 51 赤松佳奈「植物園北遺跡 (10S134)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図7)

調査地は、現状では現代盛土によりほぼ平坦になっており、標高は69.7～69.8mである。

調査区の基本層序は、地表下約0.3～0.4mまで碎石やコンクリート混じりからなる現代盛土である。その下に近世から近代の耕作土層が約0.1m (13層)、さらにその下に土壌化した土層が0.05m堆積する (14層)。それらを除去すると、黄褐色砂泥を主体とする地山層となり、多量の礫を含む下層の砂礫層が部分的に露出する。遺構はすべて地山層上面で検出された。

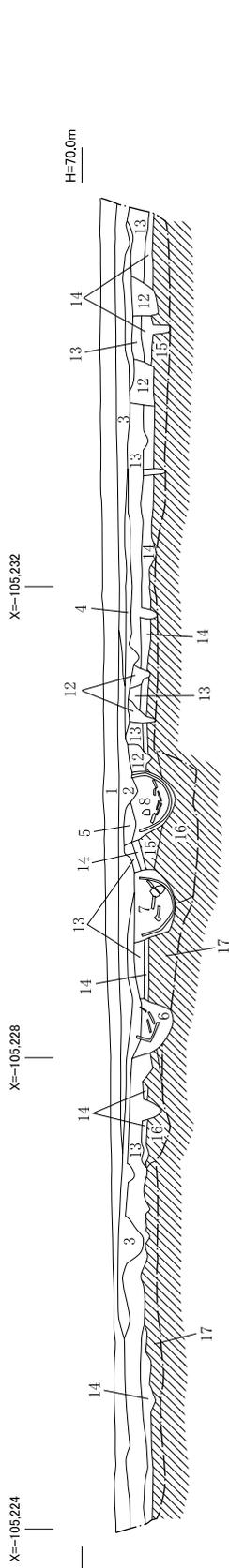
#### (2) 遺 構 (図6、図版1)

遺構は、土坑2基とピットなどを検出した。ピットは建物としてのまとまりが捉えられず、年代を示す遺物も出土していない。調査区の南端では2列に並ぶ小ピット群を検出したが、近代のもの

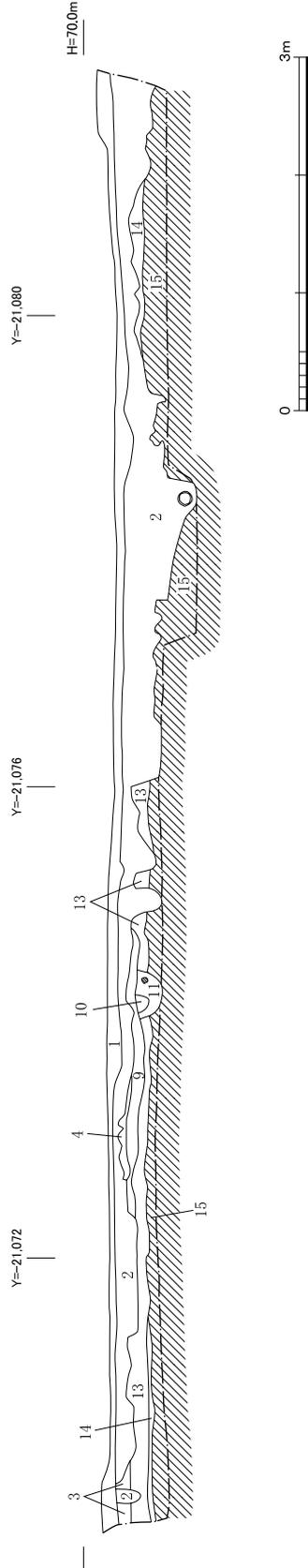


図6 調査区平面図 (1 : 100)

東壁



南壁



- |   |                  |                                 |              |                  |                           |      |
|---|------------------|---------------------------------|--------------|------------------|---------------------------|------|
| 1 | 砕石(現代盛土層)        | 10                              | 10YR3/2黒褐色砂泥 | 木炭粒・φ0.5cmの礫少量混  | 粘性ややあり                    |      |
| 2 | 10YR3/2黒褐色砂質土    | φ1~10cmの礫少量混(近代盛土層)             | 11           | 10YR3/4暗褐色泥砂     | φ0.5~1cmの礫少量混             | 粘性あり |
| 3 | 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂    | φ0.5cmの礫少量混                     | 12           | 2.5Y5/3黄褐色泥砂     | φ0.2~5cmの礫微量混(近世後の踏み込み?)  |      |
| 4 | 2.5Y5/3黄褐色泥砂     | φ0.5cmの礫・地山ブロック少量混              | 13           | 10YR4/4褐色泥砂      | φ0.5~1cmの礫・近代盛土少量混(近世耕作土) |      |
| 5 | 2.5Y3/2黒褐色砂質土    | 漆喰ブロック・φ1cm以上の礫・木炭粒少量混          | 14           | 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂  | φ0.2cmの砂微量混(土壌化した土)       |      |
| 6 | 2.5Y3/2黒褐色砂質土    | 瓦・タイル・φ1cmの礫少量混(近代トイレ埋雑)        | 15           | 10YR4/6褐色泥砂      | φ0.2cmの砂微量混(地山)           |      |
| 7 | 2.5Y4/2暗灰黄色砂質土   | 瓦・タイル・植木鉢・漆喰ブロック多量混(近代トイレ埋雑)    | 16           | 10YR5/4にぶい黄褐色シルト | φ0.2cmの砂微量混(地山)           |      |
| 8 | 2.5Y4/2暗灰黄色砂質土   | タイル・φ1~5cmの礫、漆喰ブロック多量混(近代トイレ埋雑) | 17           | 10YR3/3暗褐色砂泥     | φ2~10cmの礫少量混(地山)          |      |
| 9 | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 | φ0.5cmの礫少量混                     |              |                  |                           |      |

図7 調査区東壁・南壁断面図 (1:60)

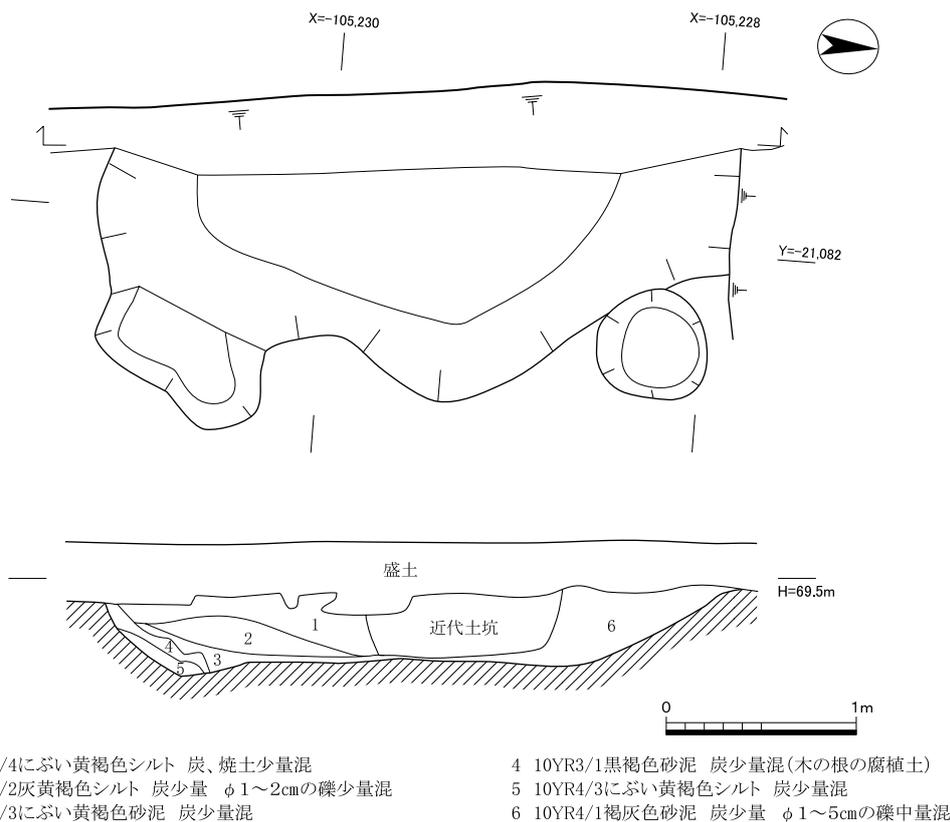


図8 土坑41実測図(1:40)

であった。以下では、主要な遺構について述べる。

**土坑41**(図8、図版1-2) 調査区西壁際で検出した。西半は調査区外に拡がり、平面形は不整形である。検出長は東西約1.7m、南北3.5mで、深さは約0.7mである。遺物は認められなかった。風倒木痕である可能性が高い。

**土坑19**(図9) 調査区中央付近で検出した。西半は攪乱を受ける。検出長は東西約1.6m、南北約1.3mで、深さは約0.14mである。底は平坦である。黒褐色の埋土(1層)が地山を切り込んでいる様子から、風倒木痕である可能性がある。遺物の出土はない。

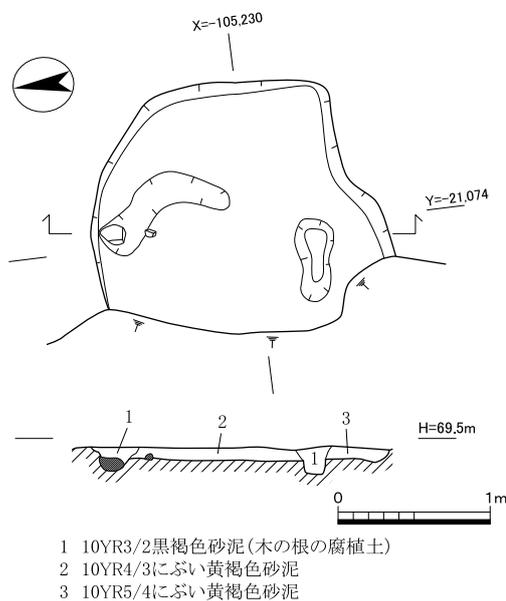


図9 土坑19実測図(1:40)

表2 遺構概要表

時代	遺構	備考
時期不明	土坑・ピット	

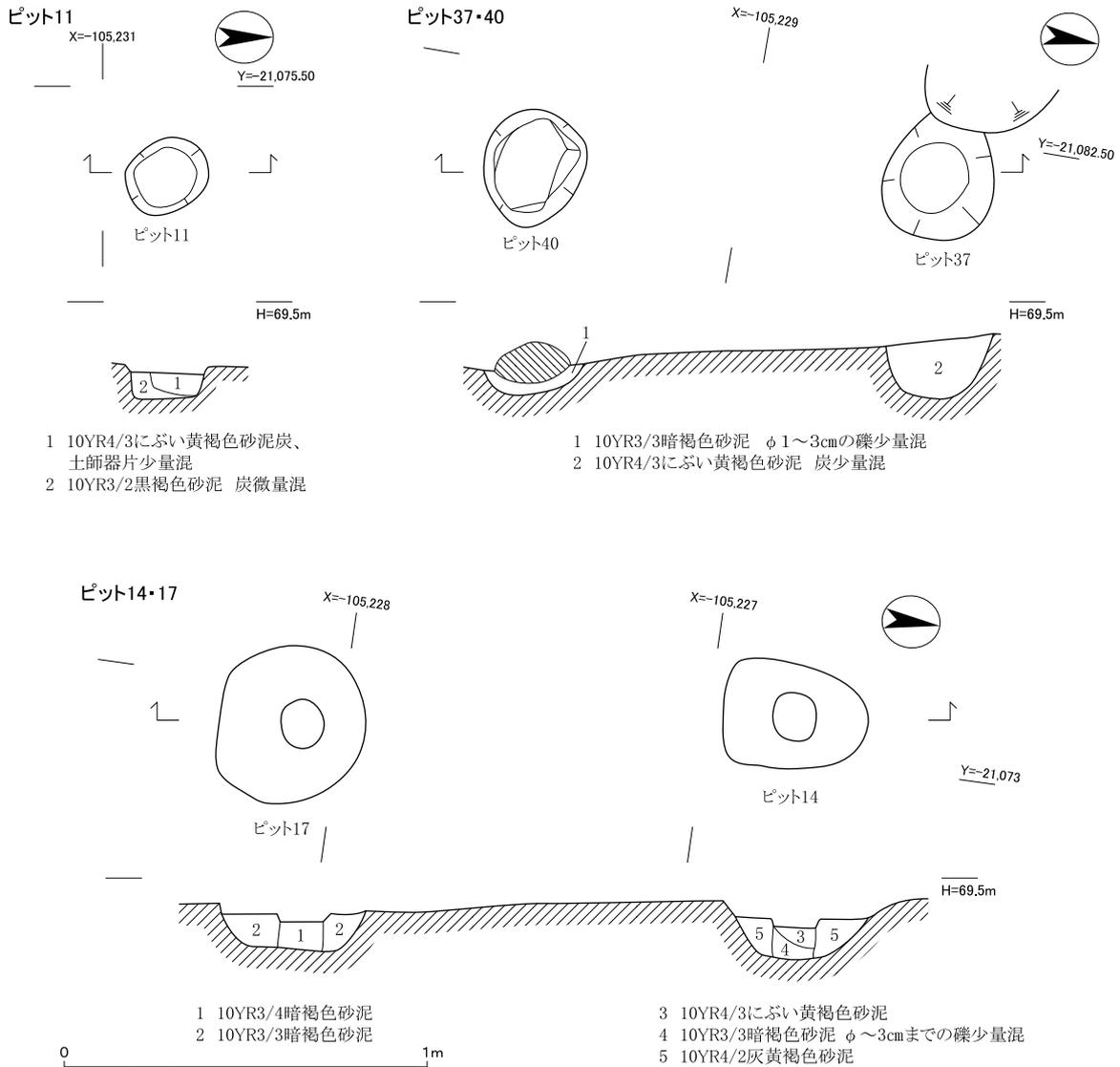


図10 ピット群実測図 (1:20)

ピット群 (図10、図版1-3) 調査区全域で平面円形の小規模なピットを検出した。

ピット11は直径0.2m、深さは検出面から0.1mある。

ピット37・40は調査区西壁際で検出した。ピット40に石が据えられており、掘立柱建物の柱穴の可能性もあるが、その北側にあるピット37は、埋土が相違し、ピット40と並ぶとは考えにくい。

ピット14・17では、柱痕跡を確認しており、掘立柱建物あるいは柵などを構成する柱穴と思われる。埋土が近代以降の耕作土に似ており、耕作に伴う可能性も考えられる。

## 4. 遺物

今回の調査では、土師器の細片が少量出土したものの、いずれも近・現代の土坑などからの出土で時期も特定できないため、取り上げなかった。

## 5. まとめ

今回の調査は、共同住宅新築工事に伴うものであり、植物園北遺跡の南東部にあたる。これまで植物園北遺跡は、多数の分布・立会・発掘調査によって、縄文時代から室町時代に至る大規模集落跡であることが明らかになっている。

近年の研究成果によると、植物園北遺跡での集落開発は縄文時代から室町時代まで断続的に展開されるが、本格的には古墳時代初頭（庄内式併行期）<sup>1)</sup>に行われるとされる。さらに平安時代に入ると、賀茂社や平安京との関わりの中で集落が形成されてきた可能性が指摘されており<sup>2)</sup>、この集落の変遷について大まかな描像は得られている。

調査地周辺では、縄文時代中期から室町時代に至るまでの遺構を検出していること（調査15・23）や、ノートルダム女学院付近の調査で弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物が多数見つかっていること（調査13・41・42・47・50）から、同様の遺構検出が期待された。ところが、今回の調査では、集落跡と関連する遺構は確認できなかった。土の堆積状況や埋土からみると、近世の耕作に伴い削平されたとも考えられるが、調査地が集落内の建物単位の間<sup>3)</sup>に存在した空地であった可能性も否定できない。今後、行われる近隣の調査による資料増加とともに、植物園北遺跡の実態が解明されることを期待する。

### 註

- 1) 柏田有香『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年  
吉本健吾・柏田有香「立会調査から見た植物園北遺跡の遺構分布」『京都府下の重要遺跡の再検討3』第20回 京都府埋蔵文化財研究会 発表資料集 2014年
- 2) 柏田有香「平安京北郊・京都市植物園北遺跡の古代の様相」『条里制・古代都市研究会大会』第31号 条里制・古代都市研究会 2016年



# 圖 版

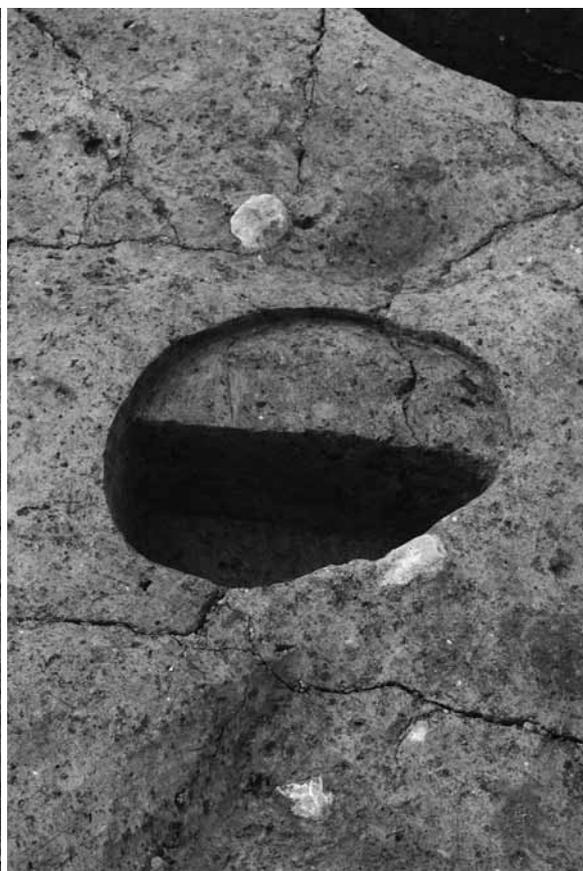




1 調査区全景（北から）



2 土坑41（南から）



3 ピット11（東から）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	しょくぶつえんきたいせき							
書名	植物園北遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2016-5							
編著者名	李 銀眞							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2017年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しょくぶつえんきたいせき 植物園北遺跡	きょうとしさきょうく 京都市左京区 しもがもいのこだちよう 下鴨狗子田町  3-2	26100	146	35度 03分 04秒	135度 46分 08秒	2016年9月 26日～2016 年10月17日	143.75㎡	共同住宅 新築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
植物園北遺跡	集落跡							

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-5

## 植物園北遺跡

発行日 2017年1月31日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961